

自分を守り、大切な人を守り、そして、地域と社会を守るために… 『新しい生活様式』を実践しよう！

龍ヶ崎市長の中山一生です。

全国各地で連日感染者が確認されており、クラスターの発生なども多く報道されておりますが、現時点で本市内における大規模な感染は発生していません。これは、市民の皆さんの新型コロナウイルス感染拡大防止の真摯な取り組みのおかげであり、敬意を表します。

「こまめな手洗い」「マスク着用」や「密接しない」など、引き続き「新しい生活様式」を実践し、感染予防のための対策を徹底するようにお願いします。

一方、感染防止対策を徹底しつつ、地域経済活性化に取り組むことも大切です。市民の皆さんと一丸となって、収束を私たちの力で引き寄せることができるよう前を向いて歩みを進めてまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

また、感染した患者さんや家族の皆さんなどに心無い言動や行動がされているとの情報を耳にする機会があります。憎むべきはウイルスであり、不要な詮索や誹謗中傷などにつながるような言動や行動などはあってはならないことです。引き続き、正しく恐れ、適切な対策をとり、良識ある行動をとることで、新型コロナウイルスの感染拡大阻止に力を合わせてまいりましょう。

龍ヶ崎市長 中山一生

現在の新型コロナウイルス感染症を取り巻く状況について

感染者数（茨城県発表資料より）

新型コロナウイルス感染症感染者数 (令和2年10月25日現在/累計)	茨城県	741人
	内) 龍ヶ崎市内	22人

茨城版コロナ Next の対策 Stage

長期戦が予測される新型コロナウイルスとの闘い。皆さんの生活を守るためには、感染の可能性をできる限り抑制しながら、段階的に社会経済活動などを再開させる取り組みが必要となります。

茨城県では独自に、県内の医療提供体制や県内・都内の感染状況、専門家の意見も踏まえ、4つのステージを設定し、ステージごとの対策を定めています。現在のステージは、**ステージ2「感染が概ね抑制できている状態」**を、9月8日から継続しています。最新情報は県HPでご確認ください。

Stage 4	Stage 3	Stage 2	Stage 1
感染爆発・医療崩壊のリスクが高い状態	感染が拡大している状態	感染が概ね抑制できている状態	感染が抑制できている状態
▶陽性者数 県内増加(10人/日超) 県内経路不明(5人/日超)	▶陽性者数 県内増加(10人/日以下) 県内経路不明(5人/日以下)	▶陽性者数 県内増加(5人/日以下) 県内経路不明(3人/日以下)	▶陽性者数 県内増加(1人/日以下) 県内経路不明(1人/日以下)
▶病床稼働率 重症病床稼働率60%超 病床稼働率70%超	▶病床稼働率 重症病床稼働率60%以下 病床稼働率70%以下	▶病床稼働率 重症病床稼働率30%以下 病床稼働率45%以下	▶病床稼働率 重症病床稼働率10%以下 病床稼働率30%以下

「新しい生活様式」を日常に取り入れよう！一人一人の基本的な感染対策

感染防止の3つの基本



①身体的距離の確保

②マスクの着用



③手洗い



2m 空ける 遊びは屋内より屋外で 外出時はマスクを 真正面からの会話は× 帰宅時に必ず手洗い

日常生活では…



新しい働き方



新しい生活様式をチェックしてみよう

- 人との間隔は、できるだけ2m（最低1m）空ける
- 会話をする際は、可能な限り真正面を避ける
- 外出時や屋内でも、会話をするとき、人との間隔が十分とれない場合は、症状がなくてもマスクを着用する。ただし、夏季は熱中症に十分注意する
- 家に帰ったらまず手や顔を洗う。人混みの多い場所に行った後は、できるだけすぐに着替え、シャワーを浴びる
- 手洗いは30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗う（手指消毒薬の使用も可）
- 高齢者など重症化リスクの高い人と会う際には体調管理をより厳重にする

移動に関する感染対策

- 感染が流行している地域からの移動・感染が流行している地域への移動は控える
- 発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモする。接触確認アプリCOCOAの活用も
- 地域の感染状況に注意する

「いばらきアマビエちゃん」を活用しよう

このマークが目印ビエ！

「いばらきアマビエちゃん」は、茨城県が作成したガイドラインに沿って感染防止に取り組んでいる事業者を応援するとともに、感染者が発生した場合に、その感染者と接触した可能性がある方に対して注意喚起の連絡をすることで、感染拡大の防止を図ることを目的としたシステムです。

県の条例により、事業者（一部）の方・県民の方ともに登録が義務付けられています。事業者の皆さんには事業者としての登録を、市民の皆さんには訪問先での利用登録をお願いします。



事業者の皆さんの利用方法

- 1 登録フォームから必要な情報を登録・送信
登録フォーム⇒
- 2 登録完了のメールを受信
- 3 メールに記載されたURLをクリックして「感染防止対策宣誓書」を印刷し、施設内に表示
- 4 施設の利用者に対し、「QRコード」の読み込みを周知・案内

メリット

システムを導入していることで、お客様に安心してお店をご利用いただけます。

「いばらきアマビエちゃん」の普及促進を目的に、市では、飲食店などの皆さんを対象に支援金を支給しています。詳しくは、市中小企業支援・相談室 ☎内線 553 までお問い合わせください。

市民の皆さんの利用方法

- 1 訪れた店舗・イベント会場などを訪問するたびに、掲示された「感染防止対策宣誓書」に記載の「QRコード」をスマートフォンなどで読み取る
- 2 読み取ったURLにアクセスして、表示される「登録する」を選択
- 3 表示されるメール画面からそのままメールを送信すると登録完了

メリット

新型コロナウイルスの感染者が発生したとき、感染者と同じ日に同じ施設を利用した方は、メールで注意喚起のお知らせを受け取ることができます。

自分を守り、大切な人を守り、そして、地域と社会を守るために… 龍ヶ崎市の感染防止対策

市役所での感染防止の取り組み

安心してご利用いただくために

市役所では、市民の皆さんに安心して窓口をご利用いただくため、下記の対策を行っています。ご来庁の皆さんにはご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

- 来庁者用のアルコール消毒液の設置
- 窓口カウンターに飛沫感染防止のための仕切りの設置
- カウンター・椅子・手すりなどの定期的な消毒
- 正面玄関でサーマルカメラによる体温測定の実施／体温がモニターに表示されるので、体調変化の目安にご活用ください
- 職員の健康管理と事務スペースの感染予防対策の徹底



▲サーマルカメラによる体温測定 ▲窓口カウンター飛沫感染防止仕切り

避難所運営

避難所の感染防止対策を進めています

コロナ禍における避難所開設に万全を期すため、国のガイドラインなどを踏まえて、避難所では次の対策を進めています。

- 避難者間の飛沫防止対策
段ボール製間仕切りやテントの配備
- 避難所での停電・換気対策
発電機・蓄電池・サーキュレーターの整備
- 避難所運営マニュアルの見直し
- 避難所レイアウトの見直し
- 受付時に咳・発熱者を区分けするための2段階式受付
- 施設内の消毒液配備など

また、これらの対策の実効性を確認するため、7月12日に松葉小学校で感染症対策にも配慮した住民参加型の避難所設置・運営訓練を開催しました。



▲訓練ではコロナ禍での避難所設置を実践

▲段ボール製間仕切り

電子図書館

電子図書館の本が増えて、おうち読書が充実！県内屈指の蔵書数に！



中央図書館が提供している電子図書館は、自分のスマホやタブレットを使い、Web環境がある場所なら、いつでも・どこでも本（電子書籍）を読むことができます。

貸出・返却のために図書館へ出向く必要はなく、外出が不要なことから、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策としても有効です。

現在の蔵書数は約1万5,000冊。今後、蔵書の少ない子ども向けの本などを中心に、倍程度の蔵書数に増やしていく予定です。

利用には、電子図書館のIDとパスワードが必要です。中央図書館の図書カードと身分証明書を持参し、中央図書館受付カウンターでお申し込みください。

詳しくは、中央図書館 ☎ 0297-64-2202 までお問い合わせください。

小中学校の感染防止対策

子ども達が学校で「安全・安心」に過ごすために

学校での新型コロナウイルス感染症対策は、文部科学省や茨城県から示されたガイドラインなどに基づき、3密（密閉・密集・密接）の回避、手洗い、マスク着用を基本にさまざまな取り組みを進めています。

学校で「安全・安心」に過ごすために行っている取り組みを、いくつか紹介します。

●デジタル教科書、電子黒板の導入・活用

3密対策として、密集・密接を回避するためにグループ学習や実験を控えています。

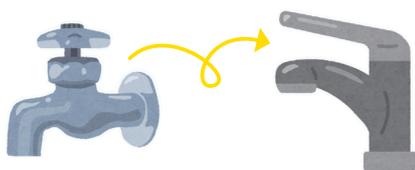
それを補うための対策として、小学校では大型テレビを導入しデジタル教科書を活用しての授業や、インターネットを活用しての授業ができるよう準備を進めています。

中学校でも電子黒板を増設し、同様の授業が実施できるよう準備を進めています。



●水道蛇口の自動水栓などへの改修

手洗い時の感染予防対策として、手洗い場の蛇口を自動水栓や、手のひらを使わず開閉できるような柄の長いレバー式のものへの改修を、順次実施します。



●手指消毒液などの設置

日常的な手洗いに使用する石けん、汚損してしまった場合の代えのマスク、手指消毒液についても、不足することがないように定期的に各学校へ配布しています。



●携帯型サーモカメラの導入

児童生徒の体調不良をいち早く発見するため、携帯型のサーモカメラを導入しています。校門や昇降口で検温を実施しています。



●オンライン授業の推進（1人1台の端末配備）

全国的に学校が臨時休業する中、オンライン授業がクローズアップされました。今般のような非常時に、児童生徒の学習機会を確保する上で、オンライン授業は非常に有効な手段です。

当初は、令和5年度までの整備を計画していた児童生徒1人1台の端末配備について、今年度末までには配備できるよう準備を進めています。併せて、高速大容量のインターネット環境の整備も、今年度末には完了する予定です。

●児童・生徒も自ら考え行動しています

小中学校では、コロナ禍の中でできることは何かについて、児童生徒が中心となって考える場を、龍ヶ崎版小中一貫教育『龍の子人づくり学習』と関連付けながら設定しました。

新型コロナウイルス感染防止のため、修学旅行や体育祭が中止となりましたが、それらに変わる新しい学校行事を、学校と児童生徒が一丸となって創り上げることができました。

また、飛沫による感染を防ぐため、『龍の子ハンドサイン』を各校で取り入れています。「離れよう」「手を洗おう」「静かにしよう」の3種類のまいりゅうのポスターを、児童生徒が密集しそうな場所に掲示し、感染防止に努めています。

※『龍の子人づくり学習』：児童生徒の生きる力を基盤とした社会参画力を育成するための学習



市独自の経済支援策 PCR 検査センターの開設

ご利用ください！市が独自に実施している経済支援策

市では、苦境に立たされている飲食店をはじめとする中小企業・個人事業主の皆さんなどを対象に、さまざまな支援事業を実施しています。主な支援事業を紹介します。

その他の支援については、『りゅうほー』10月前半号をご覧ください。

対象	支援事業の概要	問い合わせ先
事業者の皆さん 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業継続緊急支援金・農林漁業者応援金 売上が前年同月比 20%～50%未満で減少している事業者・農業者の事業継続を支援（国の「持続化給付金」対象者を除く） ● 雇用調整助成金等申請代行等費用補助金 持続化給付金等の申請書類作成等を支援 ● 家賃支援給付金 事業のために家賃等を支払っている事業者を支援（国の「家賃支援給付金」受給者） ● 新型コロナウイルス感染症予防対策飲食店等支援金 飲食店等の「いばらきアマビエちゃん」登録を支援 	中小企業支援・相談室 ☎内線 553
商店会など事業者団体 	街なか元気アップ支援事業 事業者団体が実施する消費喚起や「新しい生活様式」に沿った事業活動を支援	企画課 ☎内線 364
大学生など 	学生応援給付金 大学生などの生活を支援	社会福祉課 ☎内線 272
新生児の保護者	出産育児支援特別給付金 国の特別定額給付金の対象外となる新生児の育児を支援	 こども家庭課 ☎内線 286

市内に PCR 検査センターを開設しました

龍ヶ崎市医師会の皆さんにご協力をいただき、「龍ヶ崎市地域外来・検査センター」を8月25日に開設しました。龍ヶ崎市医師会の登録医療機関を受診後、PCR検査が必要と判断されれば、「龍ヶ崎市地域外来・検査センター」で速やかに検査が受けられるようになりました。

- **検査実施日時**：火・木曜日午後2時～4時／土曜日午前10時～正午
- **場所**：市内 ※登録医療機関を受診後、登録医療機関から場所の案内があります
- **実施方法**：ドライブスルー方式
- **PCR 検査を受ける流れ**



- 1** 症状のある方は、かかりつけ医に受診の相談。かかりつけ医の無い方は、保健センター ☎ 0297-64-1039 へ相談
 必要な方に登録医療機関を紹介します。
- 2** 登録医療機関に電話連絡し、受診
 自宅で体温測定し、マスク着用の上受診してください。PCR検査対象となった方は、検査予約日時が書かれた書類をお渡します。
- 3** PCR 検査センターで検査を受ける
 車から降りずに検査します（唾液または鼻咽頭拭い液）。検査30分前に歯磨きをし、以降は検査が終わるまで全ての飲食を控えてください。
- 4** 登録医療機関から検査結果連絡
 結果は登録医療機関から電話連絡が入ります。陽性の方は、竜ヶ崎保健所からも電話が入ります。

※登録医療機関は非公開となっています／帰国者・濃厚接触者と思われる方は、従来通り帰国者・接触者相談センター（竜ヶ崎保健所 ☎ 0297-62-2161）にご相談ください

国道6号沿い、牛久沼畔に安らぎと賑わいの場／道の駅の整備状況についてお知らせします

問 牛久沼プロジェクト課 ☎内線 392

牛久沼の賑わいづくりに向けたこれまでの取り組み

本市では、牛久沼の豊かな自然を守り・育てながら、時代の変化や人々の趣向に合わせた沼の利活用を進めていくため、平成30年に「牛久沼感幸地構想」を策定しました。その中で、道の駅を牛久沼の名所化における賑わいづくりの拠点として位置付けています。

道の駅整備については、牛久沼はもちろん、龍ヶ崎トマトや龍ヶ崎コロッケなどの地域資源を有効的に活用し、まちの活性化と知名度アップを実現するため、平成27年に策定した「龍ヶ崎市道の駅基本構想」を皮切りに、本格的な道の駅整備に乗り出しました。

その後、整備に必要な条件などを整えるため、管理運営調査などの各種調査を経て、「龍ヶ崎市道の駅基本計画」を策定しました。「心に爽やかな風が吹きわたる龍ヶ崎での安らぎと賑わいの場づくり」をコンセプトに掲げ、道路利用者の安らぎの場として、また茨城県南地域のゲートウェイとしての役割を担えることから、豊富な交通量がある国道6号牛久沼沿いを整備地に、国との共同により道の駅整備に着手しました。



▲東京～茨城間の国道6号沿い、県南で初の道の駅に

【整備年鑑】

- 平成 27年 11月 「龍ヶ崎市道の駅基本構想」策定
- 28年 4月 「道の駅プロジェクト課」新設
(現在は牛久沼プロジェクト課に改名)
- 8月 管理運営調査支援業務委託
- 29年 2月 「龍ヶ崎市道の駅基本計画」策定
- 30年 3月 「牛久沼感幸地構想」策定
- 8月 指定管理候補者決定 (ファーマーズ
フォレスト・東急ハンズ共同企業体)



◀前面に広がる牛久沼が最大の魅力【沼側からのイメージ】

道の駅整備の現状と今後のスケジュールなど



道の駅の事前工事である護岸改修工事で、想定していた以上の軟弱地盤などにより、平成31年1月から工事を中止する事態となり、開業を延期せざるを得ない状況となっています。

また、整備敷地内の調査において、過去に現地に建っていた民間レジャー施設のものと思われる埋設物が見つかり、コロナ禍による遅れもありましたが、現在、その対応に向けた調査にあたっているところ

です。

上記調査を基に、埋設物の対応や軟弱地盤対策に向けた検討を行っていくとともに、新型コロナウイルス感染症対策など新たな時代のニーズも意識しながら、今後の造成・本体工事など、開業までのスケジュールの見直しを行い、市民の皆さんにもお知らせしていく予定です。

今後も、市民の皆さんのご意見をいただきながら、道の駅整備を進めていきます。

龍ヶ崎市牛久沼フォトコンテスト2020作品募集中!

牛久沼プロジェクト課では、道の駅の整備を含めた牛久沼全体の利活用に関する事業を行っています。その一環として、「龍ヶ崎市牛久沼フォトコンテスト2020」を開催しています。

テーマは「四季を彩る牛久沼」です。入賞者には、本市特産品を副賞として贈呈します。また、入賞作品は市公式HPなど、さまざまな場面でお披露目させていただきます。

■作品規定：プリントサイズはA4横位置プリント／インクジェットプリンタ使用の場合は写真専用紙使用
カラー・モノクロは問いません。画像処理などの加工・合成・組写真不可

■応募締切：令和3年1月29日（金）

■賞・賞品：最優秀賞（1点）＝市特産品30,000円相当
優秀賞（1点）＝市特産品20,000円相当／入賞（4点）＝市特産品10,000円相当

詳細は市公式HPまたはQRコードからご覧ください。



道の駅の施設概要



現在、予定されている道の駅の施設概要を紹介します。

■整備予定地：龍ヶ崎市佐貫町地内

■整備面積：約28,600㎡

■施設概要：①地域振興施設【市整備】＝鉄骨造、延床面積約1,400㎡

主な内部施設＝物販・フードコート、多目的室、ユニバーサルトイレ、授乳室など

②トイレ・情報提供施設【国整備】＝木造／延床面積約320㎡

■駐車場：小型車158台（バリアフリー4台含む）／大型車35台

令和2年(2020年)3月14日 JR「龍ヶ崎市駅」誕生！ これまでの道のりと今後の展開

問 企画課 内線 364

令和2年(2020年)3月14日、JR「龍ヶ崎市駅」が誕生しました。「龍ヶ崎市の玄関口である唯一のJR駅に龍ヶ崎の名を」という取り組みは、昭和29年(1954年)の市制施行時以降、何度も話題となっては、実現されずにきていました。今回は改めて、「龍ヶ崎市駅」の誕生に向けた取り組みを振り返りながら、これからの「龍ヶ崎市」の取り組みについて、見ていきたいと思います。

駅名改称までの道のり



「龍ヶ崎市駅」誕生は、「選んでもらう」ための第一歩

全国的に人口減少による影響が顕在化する中で、多くの自治体で「選ばれる自治体」を目指した取り組みが進められています。本市でも、人口の流出を抑制することはもとより、市外から人を呼び込み、流入人口増加を目指す定住促進などの施策を推進しています。しかし、こうした施策を推進していく上での大きな課題として、龍ヶ崎市自体の認知度が低いことがあげられます。

認知度が低い状況で、一足飛びに「来てもらう」「選んでもらう」ような取り組みを実施しても、その効果は非常に限定的となってしまいます。まずは、「龍ヶ崎市を知ってもらう」取り組みから着実に実施していくことが大切です。その主要事業としてJR「龍ヶ崎市駅」誕生を位置付けています。もちろん、「龍ヶ崎市駅」が誕生しただけで終わりではありません。この取り組みは第1歩目にすぎません。これから、第2歩・第3歩の取り組みが必要となってきます。



市の費用負担

■ JR への負担金

2億2,469万1,096円

改札機や券売機などのシステム改修、駅名標・運賃表などの修正、行先表示・車内放送の改修など。

■ 関東鉄道への負担金

1,657万3,680円

改札機や券売機などのシステム改修、駅名標・運賃表などの改修、バスの行先表示などの改修など。

財源は、全て「龍ヶ崎みらい育成基金」から支出

【原資】ふるさと納税
龍ヶ崎未来委員会からの寄附金

JR「龍ヶ崎市駅」誕生をさらなる「賑わい」の契機へ～今後の展開～

JR「龍ヶ崎市駅」の誕生は、繰り返しになりますが、これからの歩みの1歩目にすぎず、「知ってもらう」この取り組みをどう「来てもらう」「住んでもらう」といった取り組みへと進めていくかがポイントです。

現在市では、龍ヶ崎市駅周辺地域の整備や、牛久沼の有効活用による賑わいづくり、企業誘致などの取り組みを、2歩目・3歩目として、進めています。さらにこれらの取り組みから、続々と取り組みが連動する形で、市の賑わいの創出を図っていきます。

また、短期的な「来てもらう」取り組みとしては、今年3月に新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった駅名改称記念イベントを、感染症に配慮した形で再構築し、実施していきます。『りゅうほー』や市公式HPなどでお知らせしていきますので、ご期待ください。

今回の政策情報誌はいかがでしたでしょうか。政策情報誌の品質向上のため、アンケートの回答にご協力をお願いします。

【回答締切：令和2年11月末】

